

研究課題名	【Web 会議番号 2019_16】 重症消化管アレルギーの病態解明
フリガナ	モリタ ヒデアキ
代表者名	森田 英明
所属機関 (機関名) (役職名)	国立成育医療研究センター研究所 免疫アレルギー・感染研究部 室長
本助成金による発表論文, 学会発表	Orimo K et al, Allergy Asthma Immunol Res. 2020 in press. 第 48 回日本免疫学会学術集会 シンポジウム, Morita H. Role of innate immunity in the development of allergic diseases. 浜松 2019 年 12 月

研究結果要約

近年、本邦において新生児・乳児消化管アレルギー（以下、消化管アレルギー）の症例報告が急激に増加している。消化管アレルギーは食物アレルギーの一種であるが、一般的な食物アレルギーとは病態が異なると考えられている。一般的な食物アレルギーとは異なり、消化管アレルギーは IgE 抗体を介さない機序（非 IgE 依存型アレルギー）が想定されているが、その病態の詳細はほとんど明らかになっていない。消化管アレルギーには、複数の亜型が存在することが知られているが、その中でも特に血便や嘔吐を認めない疾患群は、重篤な成長障害を認めることが多いこと、原因抗原の同定が困難な症例が多いことから、病態の解明及び新たな治療法の開発が期待されている。

そこで本研究では、消化管アレルギーの中でも、重篤な成長障害を認めることが多い、血便や嘔吐を伴わない乳児の消化管アレルギーに焦点を絞って、病態に関与する因子の同定を目的とし、胃および S 状結腸組織での遺伝子発現解析の比較検討を行なった。その結果、消化管アレルギーでは消化管局所で主に免疫細胞遊走に関与する遺伝子群が発現増強していること、これらは臓器毎に異なるパターンを示す可能性が明らかとなった。